

入試年度	2026年度	入試時期	I期入学試験	実施日	2025年 9月17日
課程	博士前期課程	研究科	教養デザイン 研究科	専攻・コース	教養デザイン専攻
入試方式	一般入学試験 外国人留学生入学試験 社会人特別入学試験		試験科目	専門科目	

「出題の意図」および「解答」または「解答例」

**【出題の意図】** 本研究科の公式サイト「研究科概要」に明記されているような人材となり得るか、また、そのための研究を遂行する能力を備えているかを評価することにあります。本研究科は、現代の人類が直面する諸課題を総合的・学際的に考察し、自らの研究を通じて人間性とその適正な環境を探求する高度な教養人の養成を目指しています。受験者が、教員とともに自分の研究を進めることのできる人材であるかどうかを判定することが、本問題の出題意図です。

**【解答例（採点時の観点）】** 採点のポイントは以下の4点となります。

- ① 事前に受験生に公表している課題図書・資料を熟読し、基礎的かつ正確な知識を身につけているかどうか。
- ② 提示された問題を多角的かつ総合的に考察し、その解決に向けて主体的に思考する教養人としての資質を備えているかどうか。
- ③ 独自の視点や思考を有すると同時に、自分とは異なる立場や意見にも配慮する客観性と柔軟性を有しているかどうか。
- ④ 以上の点を踏まえて、説得力のある論理的な文章を書く能力があるかどうか。

#### I期入学試験 論述問題

出題者は、自らの予想を超え、思わず感心させられるような答案を期待しています。唯一の「模範答案」は、本研究科の主旨となじみません。ただし、あくまで参考として示すなら、本問題については、例えば以下の点について自らの知識と論理的思考力を十分に披瀝できていることが望ましいと思われます。

1. 安藤昌益（1703～1762）は、「聖人トハ罪人ノ異名ナリ」と記している。この言葉の意味するところを解説しなさい。
  - ・安藤昌益は、自給自足の農民中心の社会こそが、人間社会本来のあり方であると考えていたこと。
  - ・安藤昌益は、身分制社会を否定していたこと。
  - ・安藤昌益は、儒学で言う聖人を、身分制社会をもたらした元凶の一部と見なしていたこと。

2. テセウスの船と呼ばれる「部品の全てが置き換えられたものは元の物体と同じか」という問題について、文化財管理の観点から、あなたの考えを論じなさい。
- ・実例を挙げながら、オリジナルを至上のものとする価値観と模造・複製・復元の意義とを説明した上で、自身の立場を明確に論じることを求める。
  - ・出題文中にある「文化財管理の観点」からの言及は必須である。
3. オリンピックと商業主義の関係について、あなたの考えを述べなさい。
- ・アマチュアの祭典であったオリンピックは、商業主義化することによって大きく変容した。その変容にはスポーツや社会に肯定的な影響を及ぼした側面もあれば、否定的な影響を及ぼした側面もある(①アマチュアの祭典から商業主義への転換、②スポーツと社会への影響、③その肯定的側面と否定的側面の3つのポイント)。これらの点について理解し、自らの考えを論理的・客観的に記述できているかが採点のポイントである。
4. ボーヴォワールは『第二の性』の中で「ひとは女にうまれない、女になる」と記したが、今日、この意味はどのように解釈し得るのか述べなさい。
- ・生物学的性差とジェンダー(文化的性差)を使い分けているかどうかを重要である。その観点があるかどうかを見る。
  - ・J.バトラーなどの論者は、子どもがLGBT+Qになる可能性を含めた議論をしており、単純に「女になる」という議論が通用しないことが記されていることが重要である。そのようなことが書かれているかどうかを見る。
5. 異文化接触の現場では思いがけない事態が起こりうる。異文化接触で生じた、単なる対立や支配／服従の関係ではない事例を挙げて具体的に説明し、その文化史的な意味を自分はどうか考えるのか述べなさい。
- ・国外からの文化に大きな影響を受け、また与え、変化してきた日本で文化論を専攻することを選んだ学生ならば、なんらかの意識を持たざるをえないはずの異文化接触について、どのような具体例を歴史からとり挙げて論じるのか、そこに静的でない、衝突し混交し変化していく動的な文化の把握があるか、接触の場における双方向性を認識しているかを問う。
6. Popular culture は庶民の文化と訳することができるが、日本で「ポップな文化」は「大衆文化」とは異なると受けとめられがちである。日本における「ポップな文化」と「大衆文化」の弁別について論じなさい。
- ・「ポップな」と言った場合には、欧米のポピュラーカルチャーに由来する要素が意識され、「大衆的」と言った場合には、日本の庶民の間でなじみのある伝統的・慣習的な要素が強い文化的な営みが想起される。なお、20世紀の大量消費社会の到来後に日本で

独特な発展をとげ広く受け入れられている文化的な営みは、「ポップ」なものとされる場合が多い。

7. 輸出志向工業化戦略の特徴について、そのメリット、デメリットの双方から論じなさい。

- ・この政策にかかわる政府、企業、労働者の3者のいずれかの観点からかを明確にすることが望ましい。
- ・採用した地域間（日本を含む、東アジア、東南アジア）での特殊性や独自性に言及しているかどうか。
- ・この問題で扱われている事例ないし人物は、自分の研究とどう関わるかについて。

8. 現代の気候危機と政治経済的、社会的な格差との関連性について、具体的な事象に言及しながら論じなさい。

- ・世界各地に展開する気候正義にまつわる諸問題、あるいはこれを追求する社会運動が掲げる問題設定や目標などについて論じてほしい。

9. 第2次トランプ政権期の米中貿易摩擦について、国際関係論の理論的観点から論じなさい。

- ・国際関係論の理論的視点が示されていること。
- ・トランプ政権下におけるアメリカの対中貿易政策について、アメリカ国内の政治的状況、および米中関係についてある程度の事実関係を踏まえながら、現実主義、自由主義、構成主義、外交政策分析などの理論的概念を用いながら説明すること。

(なお、上記すべての理論を網羅する必要はない)

#### I 期入学試験 用語解説

出題者は、自らの予想を超え、思わず感心させられるような答案を期待しています。唯一の「模範答案」は、本研究科の主旨となじみません。ただし、あくまで参考として示すなら、「用語解説」問題については、例えば以下の点の一部もしくは全てについて、自らの知識と論理的思考力を十分に披瀝できていることが望ましいと思われまます。

- ・その用語が成立ないし普及した経緯（いつ、どこで、誰が提唱したか、など）
- ・その用語が後世や現代に与えた影響（可能なら具体的な事例や人物にも言及）
- ・その用語を使ってどのようなテーマや問題を論考することが可能か
- ・その用語と自分の研究テーマとの関連

#### 合否判定の方法及び基準

入学試験は教養デザイン研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生

を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たしているかを、筆記試験及び面接試問の結果を踏まえ総合的な視点から判断しています。